



Title	アメリカ国語教育の傾向（承前）
Author(s)	八木, 穎
Citation	語文. 1951, 2, p. 38-47
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68373
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

アメリカ国語教育の傾向（承前）

八 木 教

前回において私は（一）「アメリカ国語教育の環境」及び（二）「中等教育の原理と目標」について述べ、そして（三）「アメリカ国語教育の実際」を語らんとして、編輯上の都合から、初等教育まで一切たのであつたが、以下それに続けて、中等教育すなわち中学校・高等学校における国語教育が、どのように行われているか、の問題に入つてゆこうと思ふ。

アメリカの中等教育において母国語が尊重され出したのは、十九世紀の三〇年代に入つてからのことであつた。それまで母国語を排斥して、ラテンとグリーケの研究に閉じ込つていたアカデミイにおいても、この頃から、英語学、英文学の学習が行われるようになつて、以後、この国の中等教育における英語学習の量と時間とは絶えず増加してきたのである。そして現在では、母国語としての英語は、中等教育の各段階の全生徒に、まんべんなく教られる学科となつてしまつた。中学校全時数の少くも六分の一以上が母国語とその文学との学習に充てられるようになつた。（註1）

このことは、母国語教育の目的・價值・方法・道具立てが、他の如何なる学科よりも、慎重詳細に分析された結果に他ならなかつた

のであつて、母国語こそは、あらゆる市民のあらゆる生活の、もつとも基礎をなすものである、という結論にまとめてることは、いうまでもなかつた。中等教育におけるこの学科の根本的な目標は（1）生徒に口答および文筆による藝術的表現を自由ならしめる能力をあたえること。

（2）生徒に完全な読書と、鑑賞の方法を教え、よき読書のための趣味を、彼らの内部に形づくり、そして彼らに、如何にして價値ある書物を見出すかといふことを教えること

であると連邦教育会（National Education Association）英語委員会報告（註2）はのべじる。かゝる目標の下においても、言語は、その藝術的表現より先に、独立的な精神の過程として、人間の思想を條件づける手段であり、また、人と人との思想傳達の手段であるという、その効用性が、はるかに重要、かつ上位に考えられねばならないとされている。すなわち、言語科では「話し言葉」にしても「書き言葉」にしても、それは自己の思想の表現と、他人の思想を理解する能力との発達を目標とし、傳達の手段としての言語の機能（註3）を強調するのである。しかし、言語がただ單に、思想を傳達する道具であるに止まらず、それ自身思索過程の條件・要

材であるという基礎的な事実の認識が持たれるにいたつて、英語教育の内容が廣くなつてきただ。

そこで、次に、国語としての英語科のカリキュラムが、如何なる傾向を示しているかを、うかべてみよう。

(1) 従來の各学科分立のカリキュラム。及びその改良型としての統合カリキュラム。

(2) 各学科のワクをはずして、経験や生活を中心として、新たな体系をもつたコア・カリキュラム。

(3) 右の(2)と(1)との折衷的カリキュラム。つまり完全に教科書のワクを外してしまふことをせず、経験や生活のコア学科をもちながら從來の既存学科をもつて「周辺学習」せしめるカリキュラム。コア・カリキュラムは確かに進歩的な方法ではある。しかし、前号にわちよつと述べておいたようにアメリカにおいてさえ、バージニア、アンカーサス、ジョージヤ、アラバマ、ミシシッピ、テキサス、カリフォルニア、オレゴンなどの数州とくにフロンティアの名でよばれておる新しい州で幾らか試みられたものの、文化傳統の穏いこの国でも、コア・カリキュラムを実施することには、かなりの困難があつたようである。

そこでとられた方法が單元學習である。その方法では從來の、読み方、話し方、書き方、綴字、文法と国語の内容が夫々に分化し、夫々に体系をもつといふのではなく、それらを統合し、各部門をもつと密接に關係づけて學習させる、といふ点に單元學習の特長がある。また個人差に應じた個別指導の重要なことは、すでに

常識であり、指導の基本的原則とさえなつてゐるのである。(註4)このようない学習指導においては、從來からの教科書中心から生徒の学習活動が中心の教育に、動いてきておるのは当然であるが、それでも、国語學習に不可欠の授りどころを提供している教科書は、われわれが、そうした教育の内容をうかがうのに、少くとも一つの手がかりを與えてくれるものと考えてよいであら。(日本のアメリカ式新教育を移植しようとする動向には「教科書」に対する觀念を改めさせようとする意図が多分にある。それは大切なことではあるが、一般に、教科書輕視の傾向にある如くそれを誤解して受け取られてゐるのではないか。)

中等学校で行われる国語教育の一般的傾向については、もう少しど、前号に述べた中等教育の目標を想起していただきよいのであるが、それを如何に具体化するかといふ技術的な問題、つまり方法論の相違によつて、前述のように、異つた形式が色々生れてくるし教科書もそれに應じて編纂されてくるわけである。

いわゆる「読本」の例として、リッチャード(Frances Bragan Richman)の編纂にかかる「読書は愉し!」(註5)を披いてみると、翻版五七三頁に約五〇篇の物語、約一〇篇の現代詩、それに約一〇題のセルフ・テストが加えられて成つてゐる。

物語には「郵便機乗り空中」(Mailman overboard: by Charles A. Lindbergh)のように著名な飛行家ジョン・リンドバーグがまだ無名の一メイル・キャリヤーであつた頃の自傳的な冒險物語や、或る農場にいたボニー・ケイトという娘は、そのフロンティア地方でも、とりわけ可愛い少女であつたが、逃れ、苦しみ、貧乏しながら、な

かも、あなたがそれを拾い上げるのを誰もみていないからでも、店の巡視人にそれを渡してやりますか？

d、もしも、バスであなたに隣りあつた乗客が切符を落して、あなたは、それがどこに落ちたかを知つてゐるのに、その男が知らない時、あなたは彼に注意してやるでしょうか？

e、もしも、事務員が、一ドル紙幣を受取つてゐるのに、五ドル紙幣のつもりであなたにお釣りを出したら、そして、それ全部が彼に渡すべきものであるのに、あなたがそのままお釣りを改めなかつたために三町も来てしまつていいたら、あなたはお金を取り戻すでしようか？

少年が、二人の少女と歩いているのです。その男の子の本当の位置は次のどれでしよう？

(3) 「どうしますか？」

a 少女たちの後から、

b 左右の側を、

c 二人の少女の間に、

(4) 「あなたは怠け者ですか？」次の問いに正直に答えることによつて、あなたはそれを容易に知ることができます。

a あなたはお家での用事からぬけ出るのに、あれこれ周到な計画をめぐらしますか？

b 自分の仕事を最後のどたん場まで延ばしますか？

c 朝早く起きるのをひどく嫌いますか？

d 何かするように頬ま再なくとも、あなたはお母さんのお手傳いをしますか？

e あなたはチームや、委員会や、クラブやその他のグループが

余りにもこてくさ面倒だという理由で尻込みしませんか？

f 正規の言いつけ以上に臨時の仕事をしている生徒を、あなたは手腕を見せて人を感じさせようとしているのだと思いますか？

(5) 「ペーティにゆくのにどうしますか？」男女の生徒が学校のダンスにゆくのですが、さて彼らはどこで落ち合つたらよろしいか？

a 街角で、

b 学校の近くで、

c 少女の家で、

このセルフ・テストは編者自身の作題であるらしいが、その他の物語および詩など、原作者のあるものすべては、例外なく、その著作権が十分に尊重され、原作者（著作権者）の承認を得ていて、それを明確にしていることや、巻尾にはやはり主要項目——作者名や作品名など——がインデックスもれでいることなどは、われわれの注意をひくところである。

次に、トレッスラー (J. C. Tressler) 編になる教科書 "English in action" を中心に、ハイ・スクールにおける表現構成 (composition) の教育についてのべることにする。この「エンボシション」・テキストは生徒の記述表現と口述表現における生活に働きかけ、楽しい目標をあたえて向上させ、指導してゆけるように計画されている。このことは、多くの男女生徒たちがペーティや、フットボールや、水泳や、バスケットでまたたく活潑に生き生きとしているのに彼らの経験や、主張を話したり、書いたりする時に、睡けを催したり、退屈したり、し勝ちであつたからである。生氣のある効果的な英語はそのように退屈な、うんざりしたり、睡眠剤のようなものではないのだ、という意見を編者はもつてゐる。「動作に伴つた英語」

- (English in action) という名に恥じないためには、その内容が、おや、実例と実際面を最大にし、理論と法則を最小にとどめるといふことを主張しているし、更に説明は簡単で、粹にめないので、問題個々の指導においてゆこう、ともいつてゐる。例えば、文法的な説明をする場合には、三四個の文について問題を用意して、生徒に問い合わせ、その間に答えて生徒の理解を助け、然る後、簡単な法則、定義、概念に誘導し、更に、生徒たちがどのように研究作業をしてゆくかを示すために、同じような型を補足し、そして最後に体験を多く豊かにさせじゆくのである。
- (2) (話しコトバ・書きコトバ) (English in action) がよくじゆつと立つ所の十項目に涉る土台を擧げてゐるのを聞いてみよう。
- (1) 具体的な例証や、実際問題の伴わない説明は無價値である。
- (2) (話しコトバ・書きコトバと共に) よくコトバの習慣は、正確な形の整つた知識よりも、もつと望ましいものである。
- (3) 覚醒期の生徒たちが、悪いコトバの習慣を捨てて、話しコトバにも、書きコトバにも、よいコトバの習慣をつくり上げるという事を熱心、旺盛、体系的にやつしゆくいふことが、大抵の学校での、英語の課題の半ばを占めていて、テキストは、そのためになすべき仕事の種々な動機 (varied motives) を暗示し、その仕事の実際的な価値 (practical value) を示さねばならない。そして、話しコトバ書きコトバの基礎として、少年、少女たちのいろいろな興味にも接触を忘れてはならない。
- (4) 最も多くぶつかる所の、話すこと、書くこと――例えば、会話と手紙――についてのいろんな型を夫々教えるということに多大の注意が拂われねばならない。
- (5) 模範としての生徒の課題作文は、一流の文学作品以上に彼らを刺戟する。教師は「ロシウム (Colosseum)」(註6)の絵画を高く掲げないで、好きな木蔭に往け、と語りべきである。
- (6) 詩作することは表現構成に役立つヤンスを刺戟するので、価値ある方法である。
- (7) 生徒たちは簡単な基礎文法 (fundamental grammar) の概要を習得するまでは、全く暗中で摸索する盲人同様である。
- (8) 文法指導の目標は――正しく、セントンス (sentences) を書くこと、話すこと――種々な、そして効果のあるセントンスを作ることと、■ 句読点 (punctuate) を正しくつけること、■ 印刷されたページから思想を抜萃する (extract) りと、などを助けるという所におくべきである。文法は、それゆえ、口述表現、記述表現、読書の学習と両立しうる最低の基礎学習に止めねばならない。
- (9) 教材の選択、およびそれをどの程度に強調するかを決定するための標準は、使用の度数、永続性、頻度、および誤用の社会的重大性に夫々基礎をおくべきである。
- (10) 流暢さと正確さとは共に、計画 (project) と訓練 (drill) の細心な結合により得られる。計画は訓練を動機づけねばならない。
- (11) 文法や、スペリングや、句読法や、頭文字ではじめること (Capitalization) や、効果的なセントンスに関して、知りたいところなどがある、生徒が学習するのを助ける最良の道は、熟達への要點をテストしては教えテストしては教へして、それを繰り返すことである。半可通はあまり値うちがないといえるから。

ここには編者の国語基礎学習に対する考え方方がよく出でている。そして最後にテストティングを重んずるのは、それが教授のエッセンシャル・ペーパーであるからとい、それによつて教師も生徒も迅速・正確に彼らの成果を——熟達の程度を知ることができるとから、ともいつていい。

このテキストは、四年制ハイ・スクールの最初の二年、またはジニア・ハイ・スクールの最修学年、三年制シニア・ハイ・スクールの最初の学年に使用されるように編纂され、特に優秀クラスにおいてはジニア・ハイ・スクールの上級二ヶ年に使用されてもよいとしている。

その内容は、会話、表現構成、物語る事、簡単な文法、正しい文章にすること、句の構成、友人への手紙、説明、口述と朗説、文章のセンス、よりよい文章、実用書翰、記述、思索、討論、詩作、スペリング、明晰な発音、など、ブック2はジニア・ハイ・スクールの上級二年間に使われるのであつて、内容は更に実際的、実社会的になつてくる。例えば、スピーチングの章に、声や目的や梗概、始めと終り、ラジオの場合、話者としての要件など、レターの章では、ビジネス・レターと、フレンドリイ・レターに分けて、表書き、用箋の使い方、その他詳細であり、電報原稿の注意も詳しく扱われている。以上第一部は口述および、書記表現のエクササ出版物の章では、新聞とくに学校新聞、クラス新聞のことがくわしく扱われている。以上第一部は口述および、書記表現のエクササイズであつたが、第二部は文とコトバ、つまり文法的な、コトバの科学であり、一般的な文法の解説、発音の基礎訓練などが廣汎に含まれている。

右と同じ編者が四年制ハイ・スクールの第三学年、三年制シニア

1・ハイ・スクールの第11学年のために最近(1945)編纂した同名(English in action)のCourse Three の内容を一新し、より興味深くものぐる志向が見られる。

このテキストにうかがわれる編者の目標、観点をくみとつてみると、まず、このテキストのシリーズが基礎をおいているのは、人間同志の連絡(communication)とか、自己表現を刺戟する学校内外での生徒夫々の位置・体験が言語の習慣習熟のための機会をあたえるのだという原理である。第四版では、平時戦時を問わず言語活動に関する眞に大切な目標として、次のような主張をしている。

- (1) 理解力をつけるために、指導書や、新聞・雑誌・書籍などを読むこと。
- (2) 礼儀正しく、そして十分理解しながら聞き入り、そして正確に指導にしたがうこと。
- (3) 要約(brief)や、正確なノオトをとること。
- (4) 論理的、客観的、独立的(自分で)に考へること、そして焦点を外さず、人を心服させるように(convincingly)討論すること。
- (5) 明快に、誤解を避けるに十分なよう、はつきりと話すこと。
- (6) 簡潔に、マニユスクリプト体(manuscript) (註へ)で読みやすく書くこと。
- (7) はつきり説明し、從いやすいように指図を與えること。
- (8) そのすること、見ること、聞くこと、読むことを正確で、愉しいよううに報告すること。
- (9) 健全な、魅力ある、欠点のない個性に発達すること。
- (10) デモクラシイのための、勤労と、奉仕と、指導と、知的、実践

的市民性を学校での東西の用意するところ。

(11) 豊かな語彙と、的確で力ある文章を上達する。

(12) 機能文法 (functional grammar) と句読法 (punctuation) の要領を習熟するための用意をし、英文の文法的構造を理解する。

そして、ルリジアム English in action の名前ややむしんだめには、理論と法則は最小にして、実例と練習とを最大に用意し、学校と、それ以外の全生活での普通な言語活動を効果的に運ぶことを助けようとするのである。

上級学年で使用される「English in action」の名前ややむしんだめには、理論と法則は最小にして、実例と練習とを最大に用意し、学校と、それ以外の全生活での普通な言語活動を効果的に運ぶことを助けようとするのである。

用のための雑誌を読むこと」と「図書館の利用」の二つの單元が、次の「話し・書く」能力をつくる單元の準備的段階として批判的に教材を見出し、そして使用する生徒の実力をまずみがいてよく用意をしている。第二部は、近代生活の完成上必要な部分をなす諸活動に対して、生徒の熟度を高めてゆこうとする内容を持つている。一例えは、説明すること、レポートや、交際・事務の書類を書くこと、個人的な願書の類を作ること、映画のよい作品を娘しならんなど。

創造的な表現を一つやつてみようとして、う氣持に生徒の心を誘うために、「市・学校及クラスの新聞」「ラジオ聴取、原稿作成、放送及び、「物語」の單元がはじめにあり、知的評價と、創作的評面と、このテキストの内容を組合せである。それらの後に一五〇頁に余るバンドブックと、追加附録、インデックスなどがついて、バンドブックには、文法と、慣用語法などが入っている。その中の「効

果的な文がいくつも掲げられて、「洗練された表現」(不体裁な表現を避ける)の章が載っている。これを紹介してみよう。

I will close my letter by wishing you a Merry Christmas and a Happy New Year!

やな最初の丸語が詠送やぶ

In my opinion I think The Haunted Bookshop belongs on our reading list.

やな最初の丸語

I wish to say that Jim and Phil were sorry to hear of your illness.

やな最初の丸語

Max Allen is a man who is a very skillful mechanic in his field.

どうしてか、ターミナルの部分を取り除いたのがよくかうまく (good English) であると説明している。その後には次のよふな漫画がある。『かに眼鏡をかけた青年がねねれおどこど』、やのくにには下のよふな病名が隠された理由が掲げられ、病人はなお、「おの、おの、おの、おの、それおむ」、ふくらはしむつくるのである。これが最も難むべきの隠題 (The and-so habit is one of the worst language diseases.) であるからわかる。

QUARANTINED
BECAUSE OF
AND-SO
DISEASE

まで、以上でアメリカ国語教育の概観を不十分ながら終るのであるが、そこ見られたのは、教育の目標が、能率と洗練を尊ぶアメリカの市民を育てることであり、そのためには国語教育は最も基礎をなす学科であつて、そこでは應用的能力の熟成を期待するために、却つて基礎能力、例えば、スペリングや、生きた文法による言語的訓練がくりかえされ、よいコトバに対するセンスをやしなうことが根気強さと、計画性をもつて、指導されてゆくのである。

ようやくカレッジになると單元は分化し、専門化される傾向は若干あつても、それらを常に人間に統一してゆこうとするアメリカ・カレッジ・ズムの反省が見られる。

Coan, Otis W. は、「教科課程での必要コースを狭小化」する企図は、「その地方の安寧・幸福にきつと危険である」といふ、「幻想・廣い視野、そして世界の要求を感受するセンス及リーダの資質は、工学英語や、商業英語、或は同類のコースにおいて強調された特別な熟練なんか以上に、発達さすぐきだ。」(註8) といつてゐる。

カレッジでは、個人的な創作や、読書による文学研究や、グループによる話し方や、現代文学 (contemporary) の單元が、社会的理諭のために、一般教養のターミナル・コースにおいて與えられねばならないとをクック (Cook, Alice Rice) はのべてゐる。(註9)

現代文学が学生に強くアッピールするところの、文学入門の講義を終つた学生たるにそれを翻訳せしむ」とをクーパー (Cooper, Alice C.) はいふ。 (註10) しかし、カレッジにおいては、レヴィンソン (Levinson, Margaret H.) が提案するところでは、主

始めに、学生の興味に立脚して、ラジオ・映画・雑誌への反応態度——消極的な受け取り方に対して、積極的な批判的態度——を学ばし、第二学年では、新聞のより知的的な読み方の指導がなされ、そのことができ、さらに事務的通信文の初步と、普通手紙の基礎原理学校新聞の記事書きの根本方法なども若干したらしいといふのであるが、これらは全部中等教育で一通り、十分に学習してきている筈であるが、必修の英語科にこうした実用的なものを課すことを望む一般的の傾向を代表していふとみてよからう。カレッジにおいて、こうしたことがいわれるのは、この国の六一〇のジュニア・カレッジ中、五年制と一年制が各一、三年制が六、四年制が四一、二年制が五六一の卒業者二三六、〇〇〇人中、(註11) さらに上級に進学するものはそれ程多數を占めず、自然それらのカレッジがターミナル・エデュケーションをしなければならなくなる。その事実をストーン (Stone, Helen M.) が、南カリフォルニアの英語教師会委員会の觀察録を引用して、カリフォルニアのジュニア・カレッジの教校はいまなお、彼らの仕事は、若い人々のジュニア・カレッジへの進学準備にあると考えていて、ということを示してゐるが、それ以上の修学なしに、ジュニア・カレッジだけで、すぐ社会生活に入る学生たちのために計画されたコースをもつてゐるジュニア・カレッジの中にはフレルトン・ジュニア・カレッジ、グレンダール・ジュニア・カレッジ、ロサンゼルス・カレッジ、ベンチュラ・ジュニア・カレッジ、チャփエイ・ジュニア・カレッジ、ロサンゼルス・ジュニア・カレッジなどがあり、夫々、現代文学や近代文学や、商業ジャーナリズムのコースを用意し、チャփエイでは航空学生のた

めにイングリッシュコースを開設していくことを報告したい。

(註12)

最近十年來のアメリカ高等教育とくに、右に述べたジュニア・カレッジの内容が、完成教育として充実してきたようであり、そこに行われる一般学科 (General) としての国語は、次第に生活と、興味と実用を中心としたものであるらしい。ウエデマイヤー (Wedemeyer, Archibald M.) が四年制大学の卒業生の半数は、かれらは程度の高い研究機關に入つて彼らの勉学を継続しようとした。その事はジュニア・カレッジが、すべての学生に対して適切妥当な教育経験を與えるべき責任を負わされている何よりの証拠である。(註13) といつておるのはその辺の事情を物語つているものといえよう。

ただしこじ、以上を要約してみると、アメリカにおける国語カリキュラムの傾向は、社会を背景とした言語生活を、より豊かなものとするに必要と思われる諸能力を、生き生きと伸ばしてゆこうとしているということ。そのためには、新聞でも、ラジオでも、映画でも、現代文学でも、すぐと生活と共にあるものは大切な資料。教材として取り入れているといふこと。そして、国語教育の領域をこれら生活の諸分野にまでおしひろげ、聞く、話す、読む、書くといふ、コトバの効果的な使用能力、理解能力を豊かにしよろこびしるところにある。そこには偉大な富力の背景があり、未熟な生徒たちを無理矢理背のびやせねばならぬような、所謂應用能力にばかり重点をおいて学習をせしむる氣短かやむなく、正確明晰な基礎能力の修得のためにより深い注意が拂われてゐると考えられるのである。

学制にしても、カリキュラムの編成にしても、恐らくはの国語は、バラエティに豊んだ国はないといわれる。だから、教育思潮や実際の、どれか一つの傾向のみを取りあげて、これがこの国の趨勢であるというのがあたらない。本稿においてはその意味における不徹底不明確もあらうし、更にわたくしは、アメリカの古典教育についても当然なるべきであつたが、中等教育までには、殆んど、それが扱われてゐないらしい。また、それが取り上げられるのはカレッジでも文学系統の職業課程 (Semi-professional) においてであるようだこの点に關しては、資料が整つてから改めて補いたいと思ふ。

わが国での国語教育は外見上は大きく動いたにもかかわらず、国語カリキュラムの編成・運営が依然中央集権的であるということ、基礎学習を怠つてはいるといふこと、また、民主主義的人間形成への迫力を欠いてはいるといふこと、更には国語評價の、あの四つの学習目標を宙に浮かしてしまふでおしつけていために評價が以前よりも曖昧になつてはいるということなどにおいて、まだまだ批判と反省が加えられねばならないと考へられる。

註1 "The public high school and the college" : Principles of secondary education pp.305; Alexander Inglis 1918

註2 "Report of the committee on the high school Course in English" pp. 75

註3 "How we think" Dewey J. pp. 179-80

註4 "American reading instruction" Smith, Nila Banton

1934

前号論文補正

伊佐美 喜三八

- 註5 "Reading is Fun!" Frances B. Richman 1940
註6 ハーヴィング著「浮城物語」の翻訳
註7 "浮城物語"の翻訳
註8 "English in a junior college" Coan, Otis W. : Junior College Journal, 3 : 94 - 96 Nov. 1932
註9 "English in the junior college" Cook, Alice Rice Junior College Journal, 3 : 313-8 March 1933
註10 "English for the Amiable" Levinson, Margaret H. : Junior College Journal 10:445-9 April 1940
註11 "Present Status of Junior College" Walter C. Fell, Jr. Junior College Journal 10:445-9 April 1940
註12 "English Courses for the Terminal Student" Junior College Journal 10 : 85-88 Oct 1939
註13 "Citizenship Training through Art Activities" Wedemeyer, Archibald M. : California Journal of Secondary Education 15 : 29-31 January 1940

前号の拙稿「眞淵の古今集研究と関かわる問題」の中でも、三宅氏の説を書いたが、三宅氏は「荷田春満」の中でも、「古今集左注論」を在満の作と見るとは否定に傾いておられるのやうで、それを在満の著述目録の中には入れておられない。同氏はまた「賀茂眞淵の島國學」(「國語文化」昭和十七年三月号)、後、同氏著「國學の學的体系」(所収)において、「左注論」は主として眞淵が書いたものであるとしているをみる。なぜ、「釋義文學」第1号に書いた拙稿の中でも、「野村氏の論據によれば未だこれを眞淵の著作とも決し難いとする説」として、三宅氏の「荷田春満」を註記したが、前後の文の関係から、三宅氏が眞淵説を否定しておられるやうな意味にいれる。これは私の書き方が粗漏であったためで、三宅氏の御意見は右の通りである。ここに補正して三宅氏には讀んで御詫びする次第である。